

2017年  
夏・秋号  
Vol.21

# 幸義会だより

岡山東部脳神経外科

## ベトナム遠征記

麻酔科医長 五藤 恵次

麻酔科の五藤です。この幸義会だよりには二度目の投稿です。前回は自己紹介に加えて禁煙の重要性に関して述べさせていただきました。喫煙が全身の大きな病気を引き起こすことに関しては近年テレビでも頻繁に放送されるようになってきました。前回の繰り返しになりますが、肺への影響に限っても、喫煙によって呼吸機能は年々低下し、禁煙しても回復しません。全身麻酔を必要とする手術を受ける際には非喫煙者に比べて喫煙者は術後合併症（肺炎など）の発生率や術後死亡率が数倍以上も高くなります。これらのことを十分に理解していただき、是非できるだけ早く禁煙をして下さい。あるいは、ご家族に禁煙を勧めして下さい。

さて、麻酔科は手術を受けられる人、あるいは受ける可能性のある人しか受診することのない裏方です。患者さんにとっては一生に一度も麻酔科医と会わないほうが幸せなはず。一般の方にはなじみの薄い分野なので、今回投稿を依頼されて何を



写真1：肺移植患者の麻酔開始

こうかと悩みました。困っていたところ会報編集部から「ベトナム遠征」について書くようにご指示をいただきました。そこで、今年早春にベトナムでの医療支援に参加させていただいた経験をお伝えします。

岡山大学病院の肺移植チームは2017年2月21日にハノイ市内の軍所属の大病院においてベトナム初の肺移植手術（両側生体肺葉移植）に成功しました。患者は6歳男児で、嚢胞性肺繊維症による重度の呼吸不全を患い移植以外に命を救う手段がないため、肺移植の成功率では世界トップクラスの実績がある岡大肺移植チームがベトナムからの要請を受けて昨年の秋から準備を進めてきました。移植を受ける患者（レシピエント）は岡山大学の大藤剛宏教授が執刀し、人工心臓を用いた手術時間は6時間半、麻酔時間は約10時間という大手術でした。レシピエントの手術と並行して二人の臓器提供者（ドナー）に対する開胸手術が行われ、父と叔父からそれぞれの片肺の一部を摘出し男児に移植しました。3つ手術と術後2週間以上の集中治療の全てを岡山大学からの外科医、麻酔・集中治療医、手術室看護師、集中治療（ICU）看護師、理学療法士、移植コーディネーターが担当したため、岡山からのチームは総勢30名に上りました。麻酔と術後管理を担当する麻酔・集中治療医は小林先生、岡原先生、日笠先生、前田先生（東京大学から研修中）、そして私の計5名でした（写真1・2）。

レシピエントの6歳男児は呼吸不全のため体重が13kgと体が小さく、手術も麻酔も術後管理も困難であることが予想されていました。日本の肺移植手術の第一人者である大藤教授をはじめとした岡大チームは経験豊富であり、移植手術も術後集中治療管理も無事乗りきることができました。私は2月19日に現地入りし、術翌日の22日深夜に帰途につきましたが（3泊5日）、小林先生、岡原先生の二人は手術後も2週間現地に滞在し、岡山からの外科医、ICU看護師、理学療法士と協力して、懸命に治療にあたりました。また、ベトナムの医師達は新しい治療を学ぼうと真剣に見学されて

いました。人の良さも勤勉さも古き良き（？）日本人を彷彿させ、英語が理解できていなくても「Yes」「Yes」と返事するところまでそっくりです。しかし国の体制は違っていて、後日放映された国営ニュースでは手術も術後管理もほとんど全てをベトナム人が実施したことになっていました。まあ、お国の面子もあるので、ご愛敬です。現在ではこの男児は元気に過ごされています。

今回の肺移植はベトナム国内初の成功でした。岡大肺移植チームは、1998年に日本初の肺移植に成功し、2011年にはスリランカ初の肺移植に成功しています。私は縁あってこれら3カ国すべての国内初の肺移植に携わることができました。100例以上を経験してきても症例毎に非常に緊張しますが、その国での初めての症例は特に苦労が多く不測の事態が起こりやすいものです。しかし、今回は小林先生を中心とした4名の後輩達が見事に仕事を遂行していき、その頼もしい姿に強く感銘を受けました。「藍より青く」の言葉どおりに後輩が先輩を越えてくれたことは、非常に嬉しいことです。

肺移植では手術はもちろんのことチームとしての周術期管理も非常に大切です。医師だけでなく看護師や理学療法士にも同行をお願いしたのは、その役割が非常に重要であり現地のスタッフでは対応ができないからです。これは肺移植に限らずどの医療でも同じことが言えます。病院のスタッフがチームとして医療レベルを上げていくことが大切であると今回の遠征を通じてあらためて再認識しています。この経験を生かして今後とも地域の医療レベルの向上に微力を尽くしていきたいと考えております。

最後になりましたが、今回の海外出張を許可して下さった岡山東部脳神経外科病院ならびに川崎医科大学麻酔・集中治療医学講座の皆様へ感謝の意を表します。



写真2：麻酔・集中治療医

## 地域連携室

地域連携室 山本 光美



皆様は岡山東部脳神経外科病院の地域連携室をご存知でしょうか。当院の地域連携室は、地域の医療・保健・福祉機関と連携を取り、患者様やご家族の方が安心して受診・入院療養ができるように支援していくための相談窓口です。

ご自宅での生活でお困りの事はございませんか。介護保険について聞いてみたい、困っているがどこに相談したらいいかわからない…等ありましたら、気軽にご相談ください。

入院中に困っていることはもちろん、退院後もご自宅や地域で安心して生活していただけるよう、医療ソーシャルワーカー（MSW）がかかりつけ医の先生や地域包括支援センターやケアマネジャーとも連携を図り、退院後の生活準備も支援させていただいております。

また、当院の外来に通院されている患者様の相談も受けております。相談を希望される方は1階受付窓口や病棟ナースステーションにてお声掛け下さい。

### 研修医挨拶

一般財団法人神奈川県警友会けいゆう病院 鈴木 瞭介



平成二十九年七月の一ヶ月間、研修をさせていただきました。私は東京都のすぐ隣、千葉県市川市で生まれ育ち、米国ニューヨーク州ニューヨーク市で中学・高校を卒業したのち、慶應義塾大学を卒業し現在に至ります。

ですので、大都市以外での生活は人生初の体験でした。多少の不安はありましたが、職員の皆様を始め岡山で出会う方々が皆とても優しく、のびのびと過ごすことができました。けいゆう病院では経験できない頭蓋内出血を何例か担当し、病棟管理に参加することで、医師としてレベルアップできたと感じています。また様々な種類の手術にも参加させていただきました、とても刺激的な一ヶ月となりました。実は京都より西にきたのも今回が人生初で、週末には倉敷を始め、姫路や広島等、様々な観光地へ足を伸ばしたりもしていました。また機会を見つけて岡山にお邪魔したいと思います。この度はお世話になり誠にありがとうございました。

研修医 宮崎 蔵人



8月に地域研修でお世話になった、研修医2年目の宮崎蔵人と申します。私は東京の慶應義塾大学医学部を卒業後、横浜市にあるけいゆう病院で初期研修を行っており、そのプログラムの一環として、岡山

東部脳神経外科病院で1ヶ月間研修させていただきました。中学生以降はずっと横浜育ちですが、小学生の6年間は広島に住んでいたため、岡山にもどこか親近感を覚えると同時に、久しぶりにこちらの方を訪れることができるということで楽しみにしておりました。

私が普段勤務しているけいゆう病院には脳神経外科がなく、脳外科手術を間近に見る経験は学生以来のことでした。また、頭部外傷や脳血管疾患が疑われる患者さんは救急でもほとんど運ばれてこないため、そのような疾患の精査・加療に携われたのは非常に貴重な経験でした。脳外科領域の手術は、血腫除去やクリッピングなどの開頭・穿頭術から、コイル塞栓のような血管内治療まで多岐にわたっており、脳外科の魅力や存分に感じることができました。その他にも地域の診療所やリハビリの様子も見学させていただきました。けいゆう病院では学ぶことのできる経験ばかりの一ヶ月でした。

このように充実した研修となったのも、非常に丁寧にご指導してくださいました。先生方のおかげと感謝しております。また、看護師さんをはじめ、院内スタッフの方々にはご迷惑をおかけした点多々あったかと存じますが、大変親切にしてくださいました。最後になりましたが、この場をお借りして御礼申し上げます。短い期間でしたが、本当にありがとうございました。

### 干支会

6月30日。今年度第二回の干支会が行われました。

昨年の誕生日会に引き続き、今年は、同じ干支の職員が集まって、食事会が開かれます。

普段はあまり交流する機会が少ない、他職種の職員が同じ食卓を囲み、美味しいお食事を頂ながら、それぞれの現場での情報交換や、プライベートでの会話も弾み、楽しいひとときを過ごしました。



### 院内研修会

当院では昨年12月より、認知症ケア加算2を算定しています。それに伴い、7月14日心臓病センター 榊原病院 認知症看護認定看護師の横谷弘子さんを講師としてお招きし、「認知症ケア加算における活動の実際」と題して研修会を行いました。認知症、せん妄、高次脳機能障害それぞれの違いや、加算をとるにあたっての判断基準など、臨床からの目線でわかりやすく講義していただきました。



### 新入職員紹介

臨床検査科 宮地なぎさ



平成29年5月より臨床検査科にて勤務しております宮地なぎさと申します。

今まで病院や健診機関で、主に心電図検査や脳波検査などの生理機能検査を担当しておりました。脳神経外科での検査担当とMRI検査については全く初めての経験で毎日があつという間ですが、先輩技師の皆さんの丁寧な指導のおかげで少しずつ仕事を覚えることができています。元々人と接することが好きで生理機能検査を担当しておりましたので、その経験も活かしつつ、少しでも早く他のスタッフの皆さんと同じように仕事が出来ればと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

### バレーボール部

去年から始めた病院対抗バレーボール大会が、今年7月2日(日)に瀬戸町総合運動公園で行われました。月2回の火曜日にふれあい公園で練習を重ねて試合に臨んだ結果、今年は1セットを取るまでに上達しましたが、まだまだ他病院に比べたら練習量と体力が足りないと感じる試合となりました。

これからは他病院との練習試合などをどんどん取り入れ、来年はさらにセット数が取れるように頑張っていきたいと思います。バレーはちょっと苦手と言われる方が多いですが、上手・下手関係なく日ごろのストレス発散や



### 育休明け

山中 恵美



昨年第一子となる長女を出産し、一年間の育児休暇をいただいて今年の五月に仕事復帰いたしました。おかげさまで長女は健やかに成長し、院内の託児所でも楽しく過ごしているようで安心しています。子育てしながらの勤務でご迷惑をお掛けしていますが、病棟スタッフをはじめとする皆様のご理解とお力添えに感謝しております。今後ともよろしくお願ひいたします。



診療放射線技師 山澤 里美

この度、3月26日に1年間の産休・育休明けを明けて職場復帰いたしました。1年間お休みを頂いた

おかげで子供達との時間をしっかりとる事が出来、1人目の時よりも余裕を持って過ごす事が出来ました。今後は、1年間医療を受ける立場になり良かった色々な事を、患者様により良い形としてお返し出来る様に頑張っていきたいと思っております。宜しくお願ひ致します。